

Contents

- 特集 助けあって かがやいて 2～5P
- 地域防災計画（避難所一覧） 6・7P
- 事業仕分け 8・9P
- パブコメ(合併基本計画)、個人情報 10P
- 市議会、住宅・土地統計調査、県民手帳 11P
- まちの話題 12・13P
- 宅地分譲、通行止め解除、地元駅利用促進 14P
- 保育園入園・放課後児童クラブ通所募集 15P
- 高齢者福祉、国民年金 16P
- お元気ですか(がん治療と緩和ケア) 17P
- 人権ってなあに、人権学習連続講座 18P
- 第33回長浜市芸術文化祭行事 19P
- 長浜音楽祭、パソコン講習 20P
- 長浜サンパレス講座受講生募集 21P
- インフォメーション 22・23P
- 裏表紙 は～とふるフェスタ 24P

今月の表紙

毎年、夏休みの終わりに開催されているPTAによる奉仕作業。子どもたちがより良い環境で、気持ちよく学べるようにと多くのお父さんやお母さんなどが参加されています。

8月24日(日)には、長浜小学校で約300人の皆さんが、ガラス拭きや草刈り、溝掃除やグラウンド整備などに参加され、汗を流されていました。

仕事や家庭のことが忙しくて、なかなか地域の活動に参加できないかもしれませんが、こういった活動に参加し、流す汗は、とても気持ちよくすがすがしい感じがします。

今回は、男女がともにいろいろな場面でも支え合い、分かち合いながら暮らしていく社会について考えてみます。

お父さんと奉仕作業に参加していた1年生の森田峻平くんが大きくなる頃には、もっと多くの方が地域のことに参加し、笑顔があふれる社会になっているといいですね。



特集 **助けあって かがやいて**

「新・ヒュー・ウー・マンプランができました」

「仕事・家庭・地域・プライベートを両立したい」けれど、仕事や家庭が忙しくてできないことはありませんか。老若男女あらゆる人々が、それぞれの希望に沿って、職場、家庭、地域での活動にバランスよく参加し、誰もがいきいきと活躍できる社会が今必要とされています。今回は、その実現のために重要な取組となる「男女共同参画」について考えます。

仕事中心の生活でいいの？

「いろいろなことをやりたいけど時間がなくて」という声を聞きますが、実際どれくらい忙しいのでしょうか。国の労働力調査によると週60時間以上働く人の割合が一番高いのが「30代の男性」で、労働者全体の約2割を占めています。(表1)週の労働時間が60時間以上ということは、休み無しで毎日8時間以上働くという状況になります。ここでは、家事や子育て、地域での社会活動などを行いたくても十分に行う時間があります。

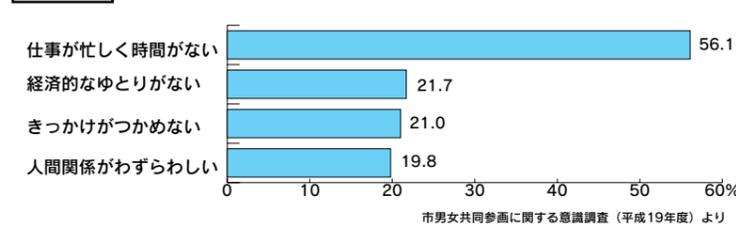
表1 30代男性で週労働時間60時間以上の人の推移

項目	平成5年	平成18年	差
人数	153万人	188万人	+25万人
割合	20.3%	21.7%	+1.4ポイント

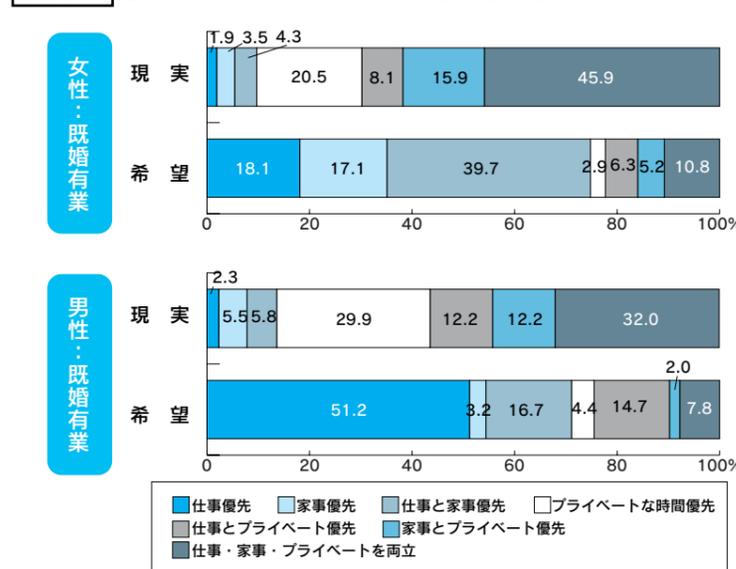
総務省「労働力調査」より

また、市民を対象にしたアンケート(グラフ1)でも、男性の半数以上が、社会活動への参加できない理由として「仕事が多忙で時間が取れない」をあげていることから、仕事中心の生活を変えないことには、うまくバランスがとれない状況であることは明らかです。

グラフ1 社会活動への参加の際に障害となる理由(上位4項目、複数回答可)

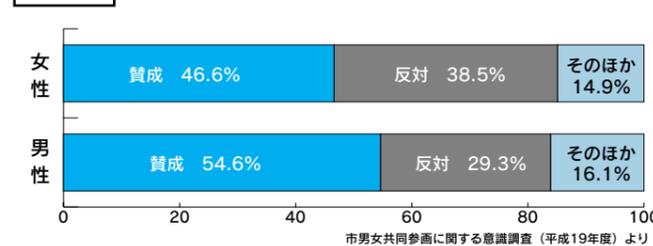


グラフ2 仕事・家事・プライベート何を優先させたいですか？



出典：「少子化と男女共同参画に関する意識調査」(2006年1月) 少子化と男女共同参画に関する専門委員会

グラフ3 「男は仕事、女は家事・育児」に賛成ですか？



聞こえてきそうです。

いつまでも「男は仕事、女は家事・育児」でいいの？

市民を対象にしたアンケート(グラフ3)では「男は仕事、女は家庭・育児」という考え方に賛成が約47%、男性は約55%の賛成がみられ、性別による固定的な役割意識がまだまだ根深いことがわかります。

また、地域での男女不平等の原因として、約6割の人が「性別

別によって役割が違うという意識」をあげています。

このように、固定的な性別役割分担意識がまだまだ根深く残っている中、性別だけで役割を決めるのではなく、それぞれの希望に合った、仕事、家庭、プライベートのバランスのとれたライフスタイルが求められています。これは、少子高齢化社会に対応するためにも必要です。